

はじめに

教師の言葉が未来をつくる生涯学び続ける子どもを育てる

本書は、自由進度学習をはじめとした「子どもが主語の授業」において、教師がどんな言葉を選び、どのように届けば、子どもたちが主体的に学び、生き生きとした学び手へと成長するかをともに考える1冊です。子どもたちが、学びのコントローラーを持ち、自分のペースで学び進めていると、必ず迷いや戸惑いが生じます。そんな子どもたちの学びを支えるための、教師の「言葉かけ」が果たす可能性を掘り下げました。

子どもの目がキラリと輝いた瞬間に立ち会えた時、それは教師にとって最も嬉しい瞬間の一つではないでしょうか。「そういうことか!」「もっと知りたい!」と声が上がリ、表情にパッと光が差し込む瞬間。その子から未来への無限の可能性を感じ、私はいつも心が震えます。あの瞬間に何度でも立ち会いたい。今日も明日も明後日も。

そんな尊い瞬間を生む鍵が、教師の「言葉かけ」にあるのではないかと考え、本書を執筆しました。

学習者主体の授業を支える「学級経営」の本を書きませんか？ と学陽書房の土田さんからお話をいただいた際、真っ先に浮かんだキーワードは「言葉」でした。

「学級経営」の根幹は、間違いなく「言葉」にあります。

○子どもにもっと任せたい。(でも、遊び出したら、どうしよう)

○学習者主体の授業をしたい。(でも、学級が落ち着かなくなったら、どうしよう)

○自由進度学習をやってみたい。(でも、学びに対する主体性が損なわれたら、どうしよう)

理想と現実の狭間にある大きな不安。それを解決する糸口が、教師の日常の「言葉」にあります。

しかし、ここで最も重要なことを述べておきます。

本書は「巧みな言葉」で子どもを動かそうといった小手先のテクニックを説くものではありません。

小手先のテクニックは、子どもたちにすぐに見抜かれます。仮に授業中に一時的な変化が見られたとしても、それは子どもが教師の意図を感じ取って適応しているだけかもしれません。これでは、自由進度学習に必要な本質的な「学びの構造転換」にはつながらないのです。

人生100年時代、そして変化が激しい令和の時代。私たちが育てたいのは「生涯学び続ける力」

を持った子どもたちです。教室や先生から離れた後も、自ら進んで学び続ける力を、何としても育みたいのです。

「言葉の力」を信じ、その選択にこだわっていますか？

形式的な言葉を投げかけているだけではありませんか？

子どもたちに本当に伝わっているでしょうか？

本気で伝えようとしたでしょうか？

私自身、数え切れない「言葉かけ」の失敗を重ねてきました。

「どうしてあんな言葉をかけてしまったのだろう」と悔やんで眠れない夜も何度もありました。本書を書き進める中で、その過去の失敗と向き合うことは苦しい時間でもありました。しかし、その経験から得た「学び」と「言葉」を、ぜひ本書を通じ、皆さんと共有したいと思います。

本書には、主体的に学ぶ子どもを育むための「30の言葉」が紹介されています。その中の一つでも、明日からの教室で実践し、役に立ててもらえたら、著者としてこれ以上の喜びはありません。

二〇二五年二月

難波 駿

本書の読み方

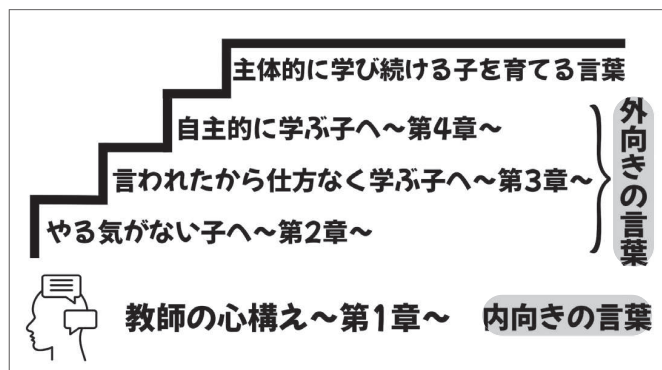
本書は4章で構成されています。

まず第1章では、子どもたちに伝えるために必要な教師の言葉（内向きの言葉）をテーマにしています。第2章から第4章までは、子どもたちに向けた言葉（外向きの言葉）を扱います。

本書を読む際、ぜひ第1章から読み始めることを薦めます。「内向きの言葉」が整わないと、いくら「外向きの言葉」を工夫しても、それは子どもには伝わりません。前述した、小手先のテクニクを駆使した「巧みな言葉」へと退化してしまいます。

第2章以降は、子どもたち個々人の「主体的な学習者レベル」に応じて声かけをまとめています。皆さんのクラスの子どものたちの状況に感じ、どこから読んでいただいても構いません。

子どもたちへの「最適な言葉」が、本書を通じて見つかることを願っております。



Contents

はじめに……2

本書の読み方……5

第1章

「自由進度学習」で学級経営がうまくいく！ 教師自身の心構え

- ① 「伝わらなくてもいい」と思って大丈夫……………12
- ② 勉強は面白いものだと思え、授業を考えよう……………16
- ③ 信頼関係を築くには、誠実に謝るとうまくいく！……………20
- ④ 「聴く・肯定する」を意識すると反発が減り、自主性が育つ！……………24
- ⑤ 感情に流されずに対応できるようになる言葉……………28
- ⑥ 機嫌のいい大人が近くにいるだけで、最高の教育環境に！……………32

Column 1

誰かの言葉に支えられて、私自身も頑張った話……………36

第2章

「やる気がない」子どもたちが 前向きに動き出す言葉

- ① 面倒くさいが口癖の子がみるみる変わる言葉……………38
- ② モヤモヤの解像度を上げると、雰囲気を変え子が落ち着く！……………42
- ③ 学習が全く進まない子が一歩踏み出す、明確な指示出し……………46
- ④ やり方がわからない子も、どんな行動を起こす仕掛け……………50
- ⑤ 違うことをしている子へは、あえて興味を示す……………54
- ⑥ 教室を離れる子には、複数の選択肢を伝える……………58
- ⑦ 「私語」を繰り返す子が自らの学びに向かう言葉……………62
- ⑧ 失敗して落ち込む子が、すぐ立ち直る背中を押す方……………66

Column 2

家庭での勉強時間が0分だった子が、2時間勉強するようになった話……………70

第3章

「言われたから仕方なくやる」子どもたちが 自主的に学び出す言葉

- ① すぐ遊び出す子が、授業に身を乗り出すようになる一言！ 72
- ② 指示待ちの子がぐんぐん自主的になる言葉 76
- ③ 勉強嫌いな子の「学ぶって楽しい！」を引き出す言葉 80
- ④ 短期的快楽を求める子も、長期的な視点を持てるようになる語り 84
- ⑤ 「教師の合格」ではなく、自分の成長に目を向けるための言葉 88
- ⑥ 小さな成長を喜べない子の励まし方 92
- ⑦ 点数を過度に意識する子が、学びの本質を理解する言葉 96
- ⑧ 作業的に勉強を繰り返す子には、具体的な新たなチャレンジを示す 100

Column 3

漢字の家庭学習にだけ取り組んでいた子が、他の教科にも興味を持った話

104

第4章

「自主的に学ぶ子」が さらにレベルアップする言葉

- ① 脳の性質を理解すると、子どもが効果的に学び始める！ 106
- ② 勉強の不安を支える、ちょっとした一言 110
- ③ 挑戦する勇気を与える、学級のちょっとした取り組み 114
- ④ 勉強をこなしている子には、学びの意義を再確認させよう 118
- ⑤ 役に立つ喜びを知るには、教師の実体験を語る 122
- ⑥ 限られた時間の中で、効果を最大化させるための言葉 126
- ⑦ 力を発揮する場面を求めている子には、評価される場を与える 130
- ⑧ チームで成果を出す体験から子どものリーダーシップが生まれる 134

Column 4

歴史漫画好きがきっかけとなった話

138

おわりに…… 139

1

「伝わらなくてもいい!」と思って
大丈夫

ちょっと惜しい…



この前も言ったのに。



もっと伝わる!



いつか受け取ってくれたらいいな。

◎厳しくできなくなった時代の教育の難しさ

「ハラスメント」という言葉が一般化し、「強要する」「高圧的な指導」が消えつつあります。私は、これは良いことだと考えます。これまで「我慢しなければならぬ」という選択肢しかなかった人たちが、「改善を求める手段」を得た時代とも捉えられます。しかし、その一方で、「厳しく指導することが難しい時代」が到来しているのもまた事実です。イチロー氏は、愛知県の社会教育センターで行われた「イチロー杯争奪学童軟式野球大会」の閉会式で、次のような言葉を残しました。(FullCount『イチロー氏、現代を生きる少年少女へ伝えたいこと「自分で自分を教育しないと」 2019年12月23日掲載記事より」)

「教えてくれる人たちは、先生たちは、なかなか(厳しく言うのが)難しいらしい。先生よりも生徒の方が力加減でいうと強くなってしまっているような状況があるみたい。このことを僕は今、心配している。『どうやって教育するんだろう』とよく考えることがあります」
「みんな小学生だけど、高校、大学、社会人になる前に経験する時間、そこで自分自身を自分で切り開いてほしいと思います。厳しく教えるのが難しい時代、自分で自分のことを教育しないといけない時代に入ってきた。自分は小、中、高となかなかそうは思えなかった。自分には厳しい先生がいた。今を生きているみんなには、それが大切なことと覚えておいてほしい」

厳しい指導がしにくくなった今、「自主性や自立性をどう育むか」これは現代の教育が直面する大きな課題のひとつです。教師は、ただ「厳しく指導する」ことができなくなったと嘆くのではなく、子どもたちが「自らを律し、より成長する心」を育むために、どのようにしていくべきかを考える必要があるでしょう。

◎厳しくできない時代に必要なのは、伝えること

「厳しくできなくなった時代」に、どのように子どもたちを育て、導くのかともに考えていきませんか。私は、もっと「伝える」ことに重きを置くべきだと考えます。単に学習指示や指導をするだけではなく、その背景や意義を伝えたり、物事を継続する価値について語ったりすることが大事だと思います。

▼指示のみ

教師 「正しい姿勢で、整った字を書きましょう」

▼意義もセットで伝える

教師 「正しい姿勢で字を書くと、頑張る気持ちが湧いてくるよ。整った字で文字が書けるようになると、どんな良いことがあるかな？」

意義を伝えるには時間がかかります。しかし、今の時代、「他者から行動を促されること」を待つのではなく、「自分で自分を納得させる根拠」をどれだけ持っているかが重要です。「なぜ整った字を

書く必要があるのか」「どうやったら整った字を書きやすくなるのか」という自分の中にさまざまな納得材料を持っている子どもは、いずれ、「自分で自分を厳しくする力」を身につけていくはずですよ。

◎「いつか受け取ってくれたらいい」程度の気持ちを常に持つておく

放っておくだけでは正しい道に導けないとわかっているからこそ、私たち教師は日々言葉を伝え続けているわけです。しかし、必ずしも教師の言葉を受け取ってもらえるとは限りません。それを常に自覚しておく必要があります。今、子どもたちに言葉が届かなくても、未来でその言葉が花開くことを願い、伝える心構えが大切です。

「伝えるタイミングを見極める」「真剣に伝える」「伝える技術を磨く」

これらを意識するのは当然ですが、子どもたちが「今は受け取れるタイミングなのか？」という状況の見極めも大事にしていきたいものです。

今は受け取ってもらえなくても、3ヶ月後に伝わるかもしれないし、1年後に伝わるかもしれないし、10年後に伝わるかもしれません。それでいいではないでしょうか。

👉やってみよう！

- 厳しくできない時代こそ、意義を伝えることを重視しよう
- すぐ伝わらなくても焦らず、長期的な視点で待とう

面倒くさいが口癖の子が みるみる変わる言葉

ちょっと惜しい…

ほら、やりなさい！

大事なことを先にやっちゃいなさい。



もっと伝わる！

「面倒くさがり」は、「勉強のセンス」があるよ。

◎「面倒くさがり」な性格が学校生活に与える大きな影響

学校生活の中で、よく注意されたり困ったりしてしまう子に多く見られる特徴として「面倒くさがり」が挙げられます。

たとえば、「提出物の提出が遅れる」「整理整頓ができない」「持ち物の準備をしない」などがありますし、日常的な勉強への取り組みも消極的なため、成績も良くないことが多いです。

「面倒くさがり」という性格面だけで、学校生活にかなりのマイナス影響を受けている子が日本にはたくさんいるのではないでしょうか（しかも、家庭や習い事でも注意を受け続ける日々）。

「面倒くさがり」な性格を改善していくのは正直難しいです。そのような子たちに対しては「面倒くさがり」の性格はそのままにして、勉強の面でプラスに働きかける方法を模索しましょう。

◎「面倒くさい」の負のパワーをプラスに変換！

私は、「面倒くさがり」な性格を持ち、注意を受け続けてきた高学年の子どもに、次のような言葉で話かけます。

教師 「勉強とか掃除とか、「面倒くさい」なことでいっぱい思うことある？」

子ども 「めっちゃあります！」

教師 「そうだよね。先生も、そういう時期が長かったからわかるよ。でもね、『面倒くさがり』っ

て実は『勉強ができるようになる』センスを持っている証拠なんだ。ジブリ映画の監督、宮崎駿さんも『大事なことは、だいたい面倒くさい』とインタビューで言っているんだ。だから、勉強に対して面倒だって感じていることは決して悪いことではないんだよ」

言葉かけ後の授業で、NHK for Schoolの「テキシコー」という番組の「ダンドリオン」のコーナーをぜひ見せてみてください。

「効率第一 ダンドリオン」のキャッチコピーで、「効率」の意味や「効率的に行動することの大切さ」を可愛らしいアニメーションとともに伝えてくれます。

◎事前に少し頭を使うだけで、あなたの人生は大きく変わる

私は、「面倒くさがり」な子に、「ダンドリオン」を見せた後に「ワークシート返却」の仕事をお願いしました。いつもはワークシート返却の手伝いを募っても減多に応じない子でした。

教師 「効率第一 ダンドリオンを見てさ、頭の使い方はイメージできたでしょ？ じゃあさ、このワークシートをどうやって返却したら効率が良いと思う？」

子ども 「たとえば、まずは席順に並び替えてから、返却すると効率が良いかもしれません」

教師 「さすがだね。素晴らしい！ じゃあ、今日と明日でそれぞれタイムを測って比べてみようか」このように、子どもたちが、「面倒くさいと感じている」ことをミッション化し、面白がりながら言葉かけするのがポイントになります。

立教大学客員教授で心理学者の内藤誼人さんの言葉を借りるなら、「下準備に時間をかけて、本番に発生する余計な時間を減らし、成果を上げていく」考え方を大切にする必要がある（『面倒くさがりの自分がおもしろいほどやる気になる本』明日香出版社、2020年）。

また、前述の子とは、「漢字学習0分で100点満点を取る作戦」として、授業中の漢字練習のみで漢字テストで満点を取る策略を立て、成功させました。その子が「家で一度も勉強しなくても満点が取れた！」とうれしそうに報告してきた目の輝きが今でも思い出されます。

生かし方が変われば強みに変わります。皆さんのクラスの「面倒くさがりな」あの子のやる気スイッチを押す言葉かけの切り口として使ってみてください。



👉 やってみよう！

- 「面倒だと思うこと」が必ずしも悪いことではないと伝える
- 効率的な工夫で成果を出せる言葉かけやミッションを活用する